

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：自民党勁草の会政務調査

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派名 自民党勁草の会 調査者 望月 勝、河西 敏郎、山田 一功、水岸 富美男
調査内容	1 調査目的 本県が現在積極的に取り組んでいる、ないしは今後取り組むことが予想される行政諸課題について既に先進的な取り組みを行っている自治体や団体等を訪問し、取り組みの具体的内容や狙い、背景等を聞き取り、また施設見学等を実施することにより、得られた知見を本県の施策や提言等に活かしていくこと。 2 調査テーマ ・リカレント教育 ・次世代空モビリティ ・サイクルツーリズムと地域振興 ・二拠点居住 3 調査期間 令和4年12月21日～令和4年12月23日 (2泊3日) 4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 京都府京都市 兵庫県神戸市 5 その他

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

<p>〔調査テーマ〕 リカレント教育</p>	<p>〔調査項目〕 リカレント教育施設の取り組みと運営について</p> <p>〔選定理由〕 社会人が新たな知識やスキルを習得するための学び直しを意味する「リカレント教育」は、変化の激しい現代の社会・経済・雇用環境の下、労使双方に利益をもたらすものとして、今後益々重要視されていくと考えられる。本県でも、本 2022 年より開催されている「豊かさ共創会議」においてリカレント教育を重視していく姿勢が確認され、その提供に向けた仕組み作りの検討が始まっている。本県で、今後どのような内容のリカレント教育を提供していくべきなのか、またその提供体制のあるべき姿を考える際の参考とするためにも、すでにリカレント教育の実施設を稼働させている自治体を視察することは有益と考えた。</p>
<p>〔調査テーマ〕 次世代空モビリティ</p>	<p>〔調査項目〕 「空飛ぶクルマ」の利活用について</p> <p>〔選定理由〕 本県では、2021 年度に策定された「リニアやまなしビジョン」に基づき、先端技術の社会実装に向けた実証実験を後押しする事業を展開している。上空を移動する世界初の実用型ホバーバイク「空飛ぶバイク」の実用化を目指す取り組みもその一つである。一方、「空飛ぶバイク」とともにドローンの次世代空モビリティとされる「空飛ぶクルマ」は、2030 年代に実用化が見込まれ、その潜在的市場規模は数兆円にのぼるともいわれる。10 数年後に迫った近未来を見据え、その特性やメリット・デメリット、どのような分野に利活用できるのか等について、空モビリティ先進県の取り組みから学び、今から正しい知見を得ておくことは重要と考え、選定した。</p>

<p>〔調査テーマ〕 サイクルツーリズムと地域振興</p>	<p>〔調査項目〕 サイクルツーリズムと温泉を結びつけた地域振興の取り組み</p> <p>〔選定理由〕 本県では令和元年に「山梨自転車活用推進計画」を策定し、「サイクル王国やまなし」の実現に向けた取り組みを行っている。県内各地でのサイクリングコースの整備・提供もその一つであり、サイクリング人口増加の追い風を受け、さらには三密回避の with コロナ時代のアクティビティとしても、観光客から好評を得ているようである。しかし、サイクリングを他の地域資源、例えば温泉等と組み合わせて、積極的に観光プロモーションを展開している事例は、県内ではまだ少ないとみられる。本県におけるサイクルツーリズムの付加価値を高め、さらに魅力あるものとするためには、サイクリングと温泉等のカップリングによる地域振興の好例に学ぶことが有効と考え、選定するに至った。</p>
<p>〔調査テーマ〕 二拠点居住</p>	<p>〔調査項目〕 二拠点居住(ワーク)と地域活性化</p> <p>〔選定理由〕 コロナ禍におけるテレワーク実施企業の増加を受け、テレワーク施設の開設やワーケーションの推進、事業所の誘致といった二拠点居住戦略を推進する自治体は本県も含め少なくないが、対象エリアのグランドデザインに関わるような、ドラスティックで独自性の強い計画はあまり見受けられない。そんな中、神戸市では、長らく観光地として親しまれてきたものの、企業の遊休施設等が激減し、昔日の勢いを失くしている六甲山を仕事の場に転換することで再活性化を目指すという独自の二拠点(都市部と六甲山上)のワークスタイルを推進している。来年度に計画の完成を目指す本施策は、山岳県である本県でも将来的に参考となり得る。また、同種のプロジェクトを遂行する際にも、実施すべき取り組み事項の優先順位づけ等に関する貴重な知見が得られると考え、選定した。</p>

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
リカレント教育施設の 取り組みと運営について	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 京都市・京都府生涯現役クリエイティブセンター・ 事務局長 ■■■■■</p> <p>[選定理由] 本県において今後注力していく方針が決定し、その効果的な提供体制について検討が始まっているリカレント教育に関して、京都府では2021年度にリカレント教育を主体とした実施設（京都府生涯現役クリエイティブセンター）を開設し、情報提供やキャリア相談、求職者マッチングも含めたワンストップでのサービスを提供している。京都府の産業人材育成についての考え方と方向性は本県と共通する点が多く、なおかつその方向性に基づく仕組みを具現化していると考えられることから、同センターの視察により得られる知見は本県でも参考になる可能性が高く、選定に至った。</p>
「空飛ぶクルマ」の利活用について	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 神戸市・兵庫県庁内 HYOGO 空飛ぶクルマ研究室【HAAM】 兵庫県企画部公民連携班長 ■■■■■ （公社）ひょうご観光本部 CMO ■■■■■</p> <p>[選定理由] ドローンの先進県として知られる兵庫県では、次世代空モビリティである「空飛ぶクルマ」についても、今2022年に県庁内にヴァーチャル研究室「HAAM」を開設し、10数年後の実用化を見据えた取り組みを開始している。具体的には、民間企業や若い世代（高校・大学生）と協働し、空飛ぶクルマを活用した地域振興策を利用者目線で考えているという。本視察を通じて、空飛ぶクルマの特性や開発状況、利活用についての知見が得られること、またHAAMが10数年後に社会の主たる担い手となる若い世代を巻き込んで活動を展開している手法からは未来の担い手育成や教育的観点でも参考になる点が多いと考えられることから、選定した。</p>

<p>サイクルツーリズムと温泉を結びつけた地域振興の取り組み</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 神戸市・(一社)有馬温泉観光協会・担当者 [REDACTED] (一財)神戸観光局・公民共創事業担当課長 [REDACTED]</p> <p>[選定理由] 日本3大古泉の一つ・有馬温泉を抱える神戸市北区の有馬・六甲エリアは、「六甲有馬ヒルクライムフェスタ」を毎年開催するなど、サイクリングの名所としても有名である。有馬温泉観光協会では、コロナ禍における新たな滞在型コンテンツとして「サイクルツーリズム at 有馬温泉」事業（神戸観光局との公民共創事業）を展開している。本2022年には、六甲山および周辺コースのサイクリングと温泉入浴をセットで販売し、観光客に好評を得たという。こうした取り組みは、ヒルクライム（峠や山道のサイクリング）と温泉という共通項を持つ本県でも応用可能と考えられる。また、サイクリングにロゲイニング（電子機器のナビゲーションを使ってチェックポイントを制限時間内に巡るスポーツ）を導入したり、実際のコースのヴァーチャル走行といったeスポーツとしてのサイクリングにも注力するなど、観光客の満足度向上に向けた同協会の取り組みは本県でも参考になると考え、選定した。</p>
<p>六甲山上スマートシティ構想における二拠点ワークスタイルについて</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 神戸市・神戸市役所経済観光局観光企画課長 [REDACTED] 神戸市・神戸市役所企画調整局政策課長 [REDACTED]</p> <p>[選定理由] 二拠点居住戦略は本県を含め多くの自治体で実施されているが、その具体的内容はサテライトオフィス等の開設や事業所の誘致、従業員の移住促進等が主体であり、独自性を打ち出すのはなかなか容易ではない。そのような中で神戸市は、六甲山上を「観光の場から仕事の場に転換し、自然豊かな環境で働くという新たな価値を創造していく」というコンセプトのもと、独自の二拠点ワークの構想を進めている（六甲山上スマートシティ構想）。それにより、近年、企業や別荘等の空き施設（物件）が目立っていた六甲山の活性化を図ると共に、さまざまな実証実験の場としても多面的に利活用していく方針のようだ。本県においても将来的に、山や森林、湖畔といった自然豊かなエリアを仕事の場として活用していくという事業構想が生まれる</p>

	可能性はある。その際には、事業環境の整備や当該地域の再ブランディング等、さまざまな取り組みが必要となろう。その参考になる事例と考え、選定した。
--	---

5 調査内容

○調査テーマ：(リカレント教育施設の取り組みと運営について)

調査項目	リカレント教育施設の取り組みと運営について		
調査都市等	京都府生涯現役クリエイティブセンター(京都市)	調査日	12月 21日
調査結果概要	<p>人生100年時代を見据え、働く人が生涯活躍できる社会の実現を目指して令和3年8月に開設された、産学官公労使の連携による京都府の施設である(所管：商工労働観光部労働政策課)。社会人を対象としたリカレント研修を中心に、キャリア相談、情報発信、人材マッチングまでをワンストップで提供している。</p> <p>開設当初は、まだまだ働く意欲が強く、仕事のスキルも高い人材が少ない50～60歳代を主要な対象としていた。このような人材の定年前後での労働移動(転職や再就職等)がスムーズに行われれば、地域の人手不足や担い手不足解消の一助となる可能性がある。その仕組み作りを担う施設を望む声の高まりも、センター開設の背景にあったという。ただし、ニーズの高まりを受けた現在では、30～40歳代や女性層にも対象を広げ、令和5年度以降は全世代型施設を目指す。</p> <p>リカレント教育については、利用者のキャリアプランやニーズに合わせて様々なプログラムを用意している。例)「京都産業を牽引する人材の育成」や「地域課題解決の担い手育成」といった分野別コースの中に、「新分野挑戦コース(社内でのスキルアップや新環境での活躍を目指す)」、「ベンチャー育成コース(起業を目指す)」、女性活躍や地域の人手不足分野(農業等)での活躍を目指すコース等がある。</p> <p>これらのコースには、座学だけでなく、ワークショップや実地研修等も取り入れられている。また、女性活躍のコースに、最近ビジネスの現場でニーズの高いDXや統計学の知識・スキルの習得を組み込む(再就職等を目指す女性が強みを得られるよう)など、時代のニーズに合ったカリキュラムが提供され、受講者のアンケートでも満足度は高いという。さらに、学び直しの後に活躍できる場の提供も目指し、上述の人材マッチングやキャリアカウンセラーによるキャリア相談等にも注力している。</p> <p>このようなりカレント教育に関わる取り組みを「オール京都」で推進</p>		

	<p>している点も注目に値するだろう。令和4年7月には府下の大学、経済団体等54団体が参画する、「京都府リカレント教育推進機構」が発足している。</p> <p>本県でも、時代と地域のニーズに合った内容のリカレント教育を、その提供体制を含めてすみやかに構築していく必要がある。同時に、一般的な認知度がまださほど高くないリカレント教育の意義と重要性について県民に周知を図り、その機運を高めていく取り組みも重要と考える。</p> <p>※リカレント教育一昨今では「リスクリング」という言葉に置き換わりつつあるが、本視察実施時(令和4年12月)ならびに本報告書作成時(令和5年1月)には、「リカレント教育」が優勢であったため、ママとした。</p>
--	---

調査項目	次世代空モビリティ		
調査都市等	兵庫県企画部地域振興課、 (公社)ひょうご観光本部(神戸市)	調査日	12月 22日
調査結果概要	<p>「HYOGO 空飛ぶクルマ研究室(HYOGO ADVANCED AIR MOBILITY:HAAM)」は、令和4年4月に開設された兵庫県と民間企業5社の協働によるヴァーチャル研究室である。次世代空モビリティ(移動手段)である「空飛ぶクルマ」※の実用化が予想される2030年代に社会人となる若者(高校生・大学生)たちとともに、その利活用や地域振興策について、利用者目線で考える活動を行っている(主にオンラインによる)。※垂直離発着、電気エネルギー使用、無人制御にて30m程度の上空を飛行するといった特徴がある。従来の航空機やヘリコプターと比べて、運行費用や騒音、二酸化炭素の排出量を抑えられるとされ、将来的に人を乗せての飛行も想定されている。</p> <p>活動の一環として、空飛ぶクルマの啓発イベント等も積極的に企画、実施している。これまで、小学生を対象にした絵画コンテストや親子で学ぶ教室、高校生を対象とした事業提案コンテスト「観光甲子園」等を実施したところ好評を得、特に後者は全国から約700チームが参加する盛り上がりを見せた。</p> <p>こうした活動は、人々が空飛ぶクルマに抱く心理的な「壁」(危険、受け入れ難いといった拒絶感情等)を緩和し、積極的に受け入れる機運(社会受容性)の醸成につながると同課では考えている。また、若い世代に次世代空モビリティを通して未来を考えてもらう機会の提供につながり、教育的観点からもその意義は大きいと考えられる。</p> <p>空飛ぶクルマの利活用の方向性として、兵庫県では、離島や過疎地への物流、災害時の活用といったライフラインに関わる「守り」の部分と、</p>		

	<p>ベイエリアの遊覧飛行等、高い収益が見込める「攻め」の部分の両輪での展開を想定している。</p> <p>本県において上記の「攻め」にも「守り」にもなり得、利便性向上にも資する可能性があるのが、主に河川上空の移動手段として利活用していく方向性である。河川をフィールドとするメリットとしては、河川敷という離発着ポートが確保でき、河川上空の飛行では都市部の有人地帯よりも高い安全性が担保されるといった点が挙げられる。</p> <p>空飛ぶクルマの市場規模は、2030年代には数兆円に達する可能性もあるという。さらにはMaas (ICTによる様々な移動手段のシームレス化) や、空飛ぶクルマによる「空の移動革命」といった、来たるべき変化の波には乗り遅れることなく、適切に対応していく必要があるだろう。</p>
--	--

調査項目	サイクルツーリズムと地域振興		
調査都市等	(一社) 有馬温泉観光協会、 (一財) 神戸観光局 (神戸市)	調査日	12月 22日
調査結果概要	<p>有馬温泉観光協会では、神戸観光局との公民共創事業として、「サイクルツーリズム at 有馬温泉」事業を展開している。この公民共創事業の目的は、「with コロナ時代の新たな滞在型観光コンテンツの創出」であり、有馬温泉での取り組みも、当初は実際のサイクリングコースのヴァーチャル走行*の提供が主体であった。*自転車にスマートフォンやパソコンがあれば、アプリをダウンロードすることにより、自宅等でも現実さながらのコース走行が体感できるというもの。</p> <p>コロナ禍がある程度落ち着いた令和4年3月から11月までは、上記事業の一環として、実際のコースを走行後に提携旅館や施設で温泉入浴が楽しめる「有馬温泉サイクルロゲイニング*」を実施した。その結果、リピーターが増えるなど好評を得たという。*ロゲイニングとは、電子機器のナビゲーションにより制限時間内に各ポイントを回るスポーツのこと。</p> <p>一方、昨今では、電子機器を使ったゲームやスポーツを競技としてとらえる「eスポーツ」の人気の高まっている。同観光協会ではeスポーツとしてのサイクリングにも注力し、有馬温泉で実施されるサイクリングレースにヴァーチャルでの参加を併用したり、ヴァーチャルライドの全国大会を実施するなどの試みを行っていくという。eスポーツは、コロナ禍で客数が減った地域の活性化のみならず、高齢化による担い手不足解消という両面につながる一手と、同観光協会では考えている。</p> <p>有馬温泉ではこのほか、ヒルクライムレースと温泉街のにぎわいイベ</p>		

	<p>ントからなる「六甲有馬ヒルクライムフェスタ」を例年開催しており、令和4年度（9月に開催）には上限人数（千人）を超える応募があった。安定したサイクリング人気を実感するとともに、サイクリングを既存の地域資源と結び付けることによる、さらなる地域振興の可能性を感じた。</p>
--	---

調査項目	二拠点居住		
調査都市等	神戸市役所（神戸市）	調査日	12月 23日
調査結果概要	<p>神戸市が推進する「六甲山上スマートシティ構想」の舞台となる六甲山は、麓から頂まで3時間ほどの山である。明治期より開発が始まり、最盛期は別荘や企業の保養所が林立し繁栄したが、バブル崩壊後は右肩下がりで空き施設が問題となっていた。しかし、阪神淡路大震災後は皆が復興にかかりきりで、手をつける余力がなかったという。</p> <p>その六甲山を蘇らせるためのプロジェクトが上記の構想である。神戸市ではまず六甲山のランドデザインの策定に着手した（令和2年度）。その結果、空港から近く、都市部からも車で約30分という好アクセスはビジネス上も大きな利点であることから、観光中心だった山を今後は仕事の場としても活用し、「山上で働くという新たな価値の創造」を目指すに至った。</p> <p>次に取り組んだのは、山上でも都市部並みに仕事ができる事業環境の整備である。しかし、自然公園法、都市計画法等の規制に縛られ難渋したため、令和1、2年度で規制緩和を行った。それにより、年単位を要した認可が月単位で下りるようになるなど、スピード感のある施策実行が可能となった。</p> <p>それにより、環境に与える負荷の低い「都市型創造産業」（広告、IT、デザイン等PC主体で仕事をする産業分野。神戸市の定義による）のオフィスが山上に立地することが可能となった。また、令和2年12月には、従来のADSLに替わって、都市部と同水準の光回線が山上に開通している。</p> <p>六甲山の再ブランディングや情報発信に関わるソフト面、山上への交流拠点の設置、企業誘致、総合窓口業務といった事業のトータルコーディネートは共同事業体への委託とした。交流拠点としては、山上に共創ラボ「令和 ROCCONOMAD（ロッコノマド）」を開設し、テレワークのほか会議や宿泊も可能としている。</p> <p>山を週末の観光だけでなく、平日昼間のオフィス需要を取り込む場と</p>		

	<p>しても活用するという発想に加え、様々な取り組みを全庁的に、また民間の活力も取り入れながら、大胆かつスピード感をもって進めている点には大変感銘を受けた。</p> <p>自然環境豊かな場所での二拠点ワークは、仕事をする人に心身のリフレッシュという付加価値を生み、それは不便さ等を上回る「新たな価値」となる可能性がある。しかも、都市部と遜色ない仕事環境（インターネット環境等）を享受できるメリットも大きい。現在のところ、対象が低環境負荷の業種等に限られてはしまうものの、本県の二拠点居住戦略の新たな切り口として大変参考になった。</p>
--	--

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

調査テーマ：リカレント教育

調査項目：リカレント教育施設の取り組みと運営について

調査都市等：京都府生涯現役クリエイティブセンター（京都市）

調査日：令和4年12月21日

議員氏名	所感及び活用の考え方
望月 勝	<p>京都府生涯現役クリエイティブセンターでは、幅広い分野の学び直し研修に注力している。その分、民間の専門学校などと違い、専門的な内容の研修は少ない。まずは受講者に学び直しのマインドを身につけてもらうことが重要と考えているためである。センターで学び直しを行った後、より高度で専門的な知識やスキルを身につけたい場合には、関連する講座を開講している専門学校や大学に進めるなど、スムーズに学びを継続できる仕組みがさらに構築されると、高度人材の育成にもつながり、より良いのではないかと感じた。</p>
河西 敏郎	<p>「永遠に生きるかのごとく学べ」という言葉があるが、人生100年代には、まさにこの姿勢が求められるのだろうと実感した。とはいえ、仕事で次々に新しい知識やスキルを求められ、現代の働く人たちは本当に大変である。リカレント教育が、こうした人たちに寄り添い、助けとなるものであれば大変喜ばしく、推進に向けて取り組んでいきたい。また、定年前後の人が学び直しをして、若い頃やりたかった仕事に就くといったようなことが可能になれば、人生の後半がより豊かになるのではないかと感じた。</p>

山田 一功	<p>本施設ではリカレント教育に加え、優良企業の多い京都の人材を中小企業につなぐマッチングも行っており、定年後の人材の移転に取り組んでいる。また、若者の入社3年以内の離職率が3割と高いことから、若者を対象にした職場定着活躍応援セミナー等も開催している。さらに、リカレント研修のプログラムが充実し、それぞれにシラバスを作成して、受講者が自分に合ったコースを選べるようにしている。本県にも、このように充実したフォローまでもが出来る機関があると良いと思った。</p>
水岸 富美男	<p>「リカレント教育」という言葉が一般の人の間に十分浸透しておらず、京都府生涯現役クリエイティブセンターでは、その周知に苦心しているということであった。確かに、「キャリア教育」や「職業訓練」、「学び直し」、「生涯学習」、そして最近では「リスキリング」という言葉まであり、それぞれの違いがわかりにくい。20歳代から定年前後までの幅広い年齢層を対象にするのであれば、若い人が主体となりがちなSNSだけでなく、イベントやテレビ番組、新聞、雑誌といった従来メディアも活用して、積極的に啓発活動を行っていく必要があると感じた。</p>

調査テーマ：次世代空モビリティ

調査項目：空飛ぶクルマの利活用、地域振興策について

調査都市等：兵庫県企画部公民連携班（神戸市）

調査日：令和4年12月22日

議員氏名	所感及び活用の考え方
望月 勝	<p>河川上空で次世代空モビリティを活用することにより、物資の輸送や、各種調査等をより安全かつ効率的に実施できる可能性がある。視察でこの話題になったとき、本県の早川町のことが頭に浮かんだ。同町では、令和4年にドローンスクール（「南アルプスドローンスクール」）を開設している。このスクールでは、基本的な座学や訓練の後、早川の河川敷でドローンの操縦訓練を行う。人口集中地区でない河川敷では、墜落による被害を最小限にできるのがまさに大きなメリットである。また早川町では、長さ数十kmにおよぶ早川の河川上空を、ドローンの長距離飛行の実証実験の場としても積極的に活用していきたいとしている。同町のように河川に恵まれた山間部は、こうした場として最適だろう。さまざまな実証実験を経て、ドローンや空飛ぶクルマ（バイク）などの空モビリティが本県で安全かつ有効に活用できるよう尽力していきたい。</p>

河西 敏郎	<p>今後、空飛ぶクルマの飛行に一定の安全性が確認されたら、その市場は一気に活性化する可能性があるそうだ。兵庫県では、それを見越して先手を打ち、さまざまな取り組みや挑戦を始めている。その進取の精神は素晴らしい。本県でも、ヘリコプター、ドローン、空飛ぶクルマ（バイク）といった各種の空モビリティの特性をふまえ、本県に適した使い方ができるよう、専門家・専門機関等とも協働して、さらに取り組みを進めていく必要があるのではないか。</p>
山田 一功	<p>次世代空モビリティ「空飛ぶクルマ」の利活用、地域振興策について、兵庫県の斎藤知事は公民連携を進めており、2025年の大阪万博に合わせて、空飛ぶクルマを移動手段にするための実証実験に取り組んでいる。兵庫県はドローンの先進県として有名であるが、空飛ぶクルマに関しても、10年先を見据えたユニークな取り組みを行っていると感じた。様々な法規制がある中での取り組みにご苦労を感じたが、実用化は近いと感じた。本県での利活用について、川沿いの上空移動に特化し、その第一人者的存在を目指す方向性も面白い、などのご意見をいただき、充実した視察であった。</p>
水岸 富美男	<p>「空飛ぶクルマ」や、本県で実用化を目指す「空飛ぶバイク」が日常的に利用できる未来は大変夢があり、大人でも様々な空想をかきたてられる。子供たちや若い世代であれば、なおさらだろう。その意味で、兵庫県が若い人を対象に行っている空飛ぶクルマの事業提案コンテストのような企画は、本県でも実施する価値があるのではないかと感じた。夢がある一方で、新しい空の移動手段に関しては、事故や衝突、墜落に対する不安がどうしてもついて回るものだろう。今回の視察の説明でも言及されたが、その実用化までには一歩ずつ、十分な安全性の検証が行われていくはずである。その推移を注視しながら、引き続き情報収集に励みたい。</p>

調査テーマ：サイクルツーリズムと地域振興

調査項目：有馬温泉におけるサイクルツーリズム事業について

調査都市等：(一社)有馬温泉観光協会(神戸市)

調査日：令和4年12月22日

議員氏名	所感及び活用の考え方
望月 勝	<p>インバウンド観光客のサイクルツーリズムの状況について質問したところ、有馬温泉では、サイクリングを主目的に訪れたわけではなくても、一度体験すると旅の満足度が上がり、リピーターになるケースが多いという。一度切りではなく、二度、三度と訪れ、ファンになっ</p>

	<p>てもらうのは大変なことである。サイクルツーリズムが、そのための有効な方策の一つであることを実感した。私の地元である峡南・富士川エリアも、本県の「自転車活用推進計画」に基づくモデルコースの一つに策定されている。インバウンド観光客の戻りが期待できる今後は、より多くの方に本県でサイクリングの素晴らしさを体感し、リピーターやファンになってもらえるよう努めたい。</p>
河西 敏郎	<p>スポーツ、観光、文化・芸術など複数の地域資源を結びつけて活用することによって、新たな地域の魅力が生まれ、地域振興につながる。本県でも、そのような取り組みを積極的に実施してほしい。例えば、最近中高年に人気の高いグラウンドゴルフのプレイや大会参加と温泉入浴を組み合わせた観光プランなどは、検討の余地があるのではないだろうか。また、自転車をはじめとしたeスポーツについては、特に幼いころからゲームやデジタル機器に親しんできた若い世代と相性がよいのであろう。今後、観光振興策等を立案・検討する際には、そのことも考慮する必要があると感じた。</p>
山田 一功	<p>有馬温泉におけるサイクルツーリズム事業では、現実の場所を実際に走るサイクリングや温泉入浴に加えて、eスポーツ(コンピュータゲーム等を使った競技。サイクリング等の乗り物を使ったレースも含まれる)にも力を入れているとのことであった。コロナ禍で客足が遠のいた中での地域活性化策、また地域の担い手不足の対策の一つと考えており、自転車のバーチャルライドレースの全国選手権を行うなど、今後も盛り上げていきたいという。実際のサイクリングレースと併用もできるようにもなっている。本県でも、昇仙峡や湯村温泉の観光振興を考える上で参考になると感じた。</p>
水岸 富美男	<p>サイクリングと温泉を結びつけたアクティビティの事例について学んだ。本県でも同様のアクティビティ商品によって、温泉地がさらに活性化する可能性を感じた。神戸観光局の公民共創事業についても概略を聞いたが、バスの車体を使ったサウナやお坊さんとのサイクリングといったユニークな事業アイデアの例や、自転車を折りたたまなくても乗車できるバスや電車の実証実験など利用者の利便性向上に向けた取り組みに感心した。ヴァーチャルライドについては、本県でも、東京オリパラでの自転車競技ロードレースコースの疑似体験動画を作成しており、好評と聞く。eスポーツとしての自転車がさらに人気を得ていく可能性も感じた。</p>

調査テーマ：二拠点居住

調査項目：六甲山上スマートシティ構想における二拠点ワークスタイルについて

調査都市等：神戸市役所（神戸市）

調査日：令和4年12月23日

議員氏名	所感及び活用の考え方
望月 勝	<p>神戸市では六甲山を平日の仕事の場として活用していく方針であるが、週末は従来通り、観光やにぎわいの場としても活用していきたいとのことで、そのための取り組みも行っている。後者の目線で考えると、都市部からわずか30分程度という立地条件は、都内から最低でも1時間半程度はかかる本県と比べ、大変恵まれている。しかし、都市部から近いが故の弱みもあり、宿泊ではなく日帰り観光が好まれるため、意外とお金を落としてもらえないのだという。一見恵まれているようでも、自治体によって悩みは様々であり、それを打開するための知恵の結集と実行力こそが重要と感じた。</p>
河西 敏郎	<p>この事業では、六甲山上の再開発によりビジネス環境を整え、交流施設の利用や事業所の誘致を進めている。担当の方の「六甲山は、いろいろと活用できるポテンシャルの高い山」、「昔輝いていた姿を取り戻してほしい」という言葉に、地元の山への愛着を感じた。まず規制緩和に取り組み、都市部と同水準のインターネット環境を山の中に整備したこと、広報や相談窓口など民間が得意とする領域は委託としたこと等、的確でスピード感のある動きは大いに参考になった。</p>
山田 一功	<p>六甲山上スマートシティ構想のもと、「都市部からすぐ近くに豊かな自然が広がる」をコンセプトに、六甲山の自然を生かした独自の二拠点ワークスタイルを提案している。すでにいくつかの市内、県内外の企業が六甲山に事業所を設置している。</p> <p>コロナ禍以降、移住やワーケーション、二拠点居住等のニーズは高まっており、実際に都心から地方への移住が進んでいる。本県がさらに「選ばれる」場所となるうえで、神戸市の施策は、本県と首都圏を結び、県内へのサテライトオフィス開設や従業員への二拠点居住を推進している本県の施策が大いに参考になるだろう。</p>
水岸 富美男	<p>1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災から28年が経過した。神戸市の「六甲山上スマートシティ構想」が2020年に始動するまでは復興事業に時間をとられ、なかなか六甲山まで手が回らなかったようだ。復興にはそれだけ長い年月を要するのだと痛感し、地域防災への思いを新たにした。六甲山上の交流施設「ROCCONOMAD」までは、山の途中で車を降りてから徒歩で15分かかかるが、ハイキング感覚で楽し</p>

	<p>む利用者も多いそうである。山歩きをしながら仕事のプランを話し合 うイベントなども構想中と聞いた。既存の概念にとらわれない柔軟な 発想は素晴らしいと感じた。</p>
--	--

6 調査状況 (写真)

○令和4年12月21日 調査先 (京都府生涯現役クリエイティブセンター)



リカレント教育施設の取り組みと
運営について調査

左より時計回りに、河西議員、望月議員、(山田議員)、水岸議員、事務局長 [REDACTED]

○令和4年12月22日 調査先 (兵庫県企画部地域振興課)



若者たちとの協働による
次世代空モビリティ「空飛ぶクルマ」
の利活用・地域振興策について調査

左下より時計回りに、山田議員、河西議員、望月議員、水岸議員、
兵庫県企画部公民連携班長 [REDACTED]、ひょうご観光本部 CMO [REDACTED]

○令和4年12月22日 調査先（有馬温泉観光協会〈拠点店舗「カーザ・シクリズモ」〉）



有馬温泉におけるサイクルツーリズム事業について調査

左下より時計回りに、水岸議員、有馬温泉観光協会：██████████、神戸観光局公民共創事業担当課長：██████████、
(山田議員)、望月議員、河西議員

○令和4年12月23日 調査先（神戸市役所）



六甲山上スマートシティ構想における二拠点ワークスタイルについて調査

左上より時計回りに、神戸市経済観光局観光企画課長：██████████、山田議員、河西議員、望月議員、
水岸議員、神戸市企画調整局政策課長：██████████